Ⅱ．図書教材の使用状況

～訓練現場では図書教材をどのように使用しているか～

ここでは、〝(1) 職業訓練用教科書の使用冊数、使用割合及び購入価格等（調査①）″の集計結果をもとにして、図書教材の使用状況を報告する。

1．図書教材の組合せ

調査項目「職業訓練用教科書の使用冊数」における認定教科書、市販図書及び自作図書の回答の有無から、それら図書教材の使用構成（単独または組合せによる使用状況）を調べた。以下、その概況を述べる。なお、集計結果の詳細は巻末資料3を参照されたい。

(1) 調査票全体における図書教材の組合せ使用

全調査票における図書教材の組合せ使用は表2－1のとおりである。

表2－1　図書教材の組合せ使用（全調査票）

構成区分	認のみ	認＋自	認＋市	認+自+市	市＋自	市のみ	自のみ	無回答
調査票数	253	35	974	317	120	322	12	1
(%)	12.4	1.7	47.9	15.6	5.9	15.8	0.6	0.1

認定教科書の使用　77.6%

市販図書の使用　85.2%

自作図書の使用　23.8%

（注）認：認定教科書の略　市：市販図書の略　自：自作図書の略

表2－1によると、認定教科書だけを使用している訓練科は12.4%、市販図書だけを使用している訓練科は15.8%であり、自作図書だけの使用はわずかに0.6%である。一方、単独または他図書教材との組合せ使用は、認定教科書で77.6%、市販図書で85.2%であり、図書教材の組合せ使用がほぼ一般化している。

なお、自作図書の単独または他図書教材との組合せ使用は23.8%と低い比率になっているが、これは、教科目レベルの体裁をなさない自作図書が回答者によってふるいに掛けられた結果と推察される。本調査後に訓練施設の訪問調査を別に行っているが、そこではかなりの自作図書を拝見させていただいており、本調査の集計結果にかかわらず自作図書の作成並びに利用は活発である。

(2) 養成訓練と能開訓練における図書教材の組合せ使用

図書教材の使用構成を、養成訓練と能開訓練に分類して集計した結果を表２－２及び表２－３に示す。

表２－２　図書教材の組合せ使用（養成訓練の場合）

構成区分	認のみ	認＋自	認＋市	認+自+市	市＋自	市のみ	自のみ	無回答
調査票数	155	20	608	130	53	149	3	0
（%）	13.9	1.8	54.4	11.6	4.7	13.3	0.3	0.0

認定教科書の使用　81.7%

市販図書の使用　84.0%

自作図書の使用　18.4%

表２－３　図書教材の組合せ使用（能開訓練の場合）

構成区分	認のみ	認＋自	認＋市	認+自+市	市＋自	市のみ	自のみ	無回答
調査票数	98	15	366	187	67	173	9	1
（%）	10.7	1.6	40.0	20.4	7.3	18.9	1.0	0.1

認定教科書の使用　72.7%

市販図書の使用　86.6%

自作図書の使用　30.3%

２つの表では、

ａ．認定教科書は、養成訓練で81.7%、能開訓練で72.7%が使用しており、依然として活発な使用状況を示している。

ｂ．市販図書は、養成訓練、能開訓練共に約85%が使用しており、認定教科書の利用をさらに上回っている。しかし、認定教科書との組合せ使用を除くと18.0%と26.2%にすぎず、市販図書だけで図書教材が満足できる状況にはない。

ｃ．自作図書の使用は、能開訓練（30.3%）が養成訓練（18.4%）を大きく上回っており、認定教科書と逆の現象を示している。これには、後述するが調査票における能開訓練B型の実施比率が高いことが大きくかかわっている。

といった使用状況を示しており、市販図書の使用が今後さらに増加するにしても、認定教科書をベースにした図書利用が依然続くと予想される。また、自作図書の使用もB型訓練の拡大と共に増加が予想され、期待されるところであるが本調査とは別に実態調査が必要である。

(3) A型訓練とB型訓練における図書教材の組合せ使用

都道府県立訓練科、事業団立訓練科及び障害者訓練科の、A型訓練とB型訓練における図書教材の組合せ使用は図２－１～図２－３のとおりである。

a．都道府県立訓練科

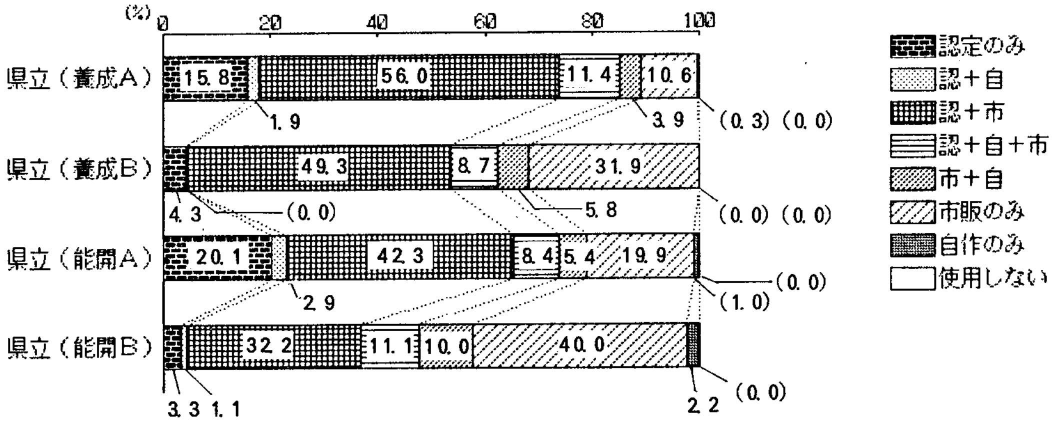

図２－１　図書教材の組合せ利用／都道府県

養成訓練、能開訓練共に、A型訓練での認定教科書の使用（単独または組合せ利用）がB型訓練のそれを大きく上回っている。これに対し、B型訓練では市販図書の組合せ使用は90%が超え、また、市販図書の単独使用も養成訓練で31.9%、能開訓練で40.0%と高い比率を示している。このことから、都道府県立訓練科では、訓練のB型移行への対応を市販図書に大きく依存している様子がうかがえる。

b．事業団立訓練科

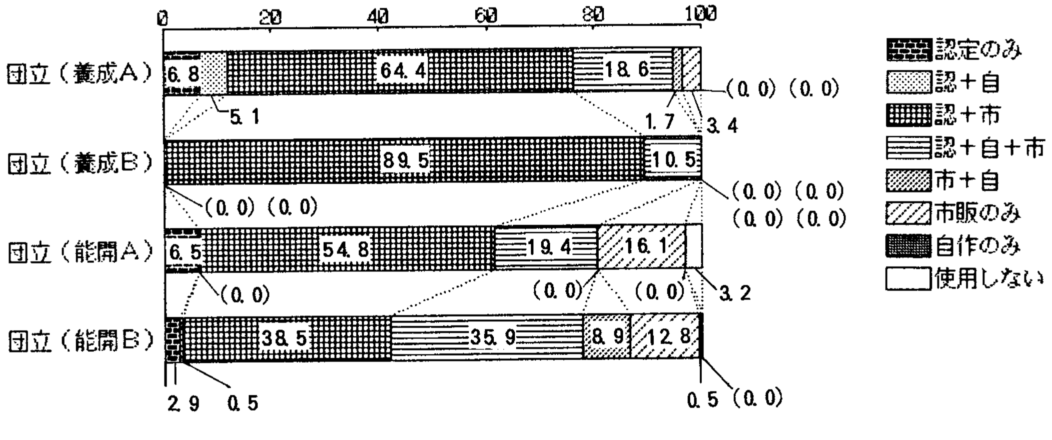

図２－２　図書教材の組合せ利用／事業団立

能開訓練のB型訓練が当該調査票の77.8%を占めているので、その組合せ使用を見ることにする。それによると、認定教科書の使用は約78%であり、A・B型訓練間の較差も都道府県立訓練科ほどではない。特徴的なのは、自作図書の使用が約46%と極めて高い比率を示し、都道府県立訓練科の場合を大きく上回っている点にある。都道府県立訓練科では認定教科書の不足を市販図書に依存する傾向を示し、事業団立訓練科では市販図書を使用はするが、それ以上に自作図書に依存する傾向を示しているといえ、対照的な使用状況になっている。

c．障害者訓練科の場合

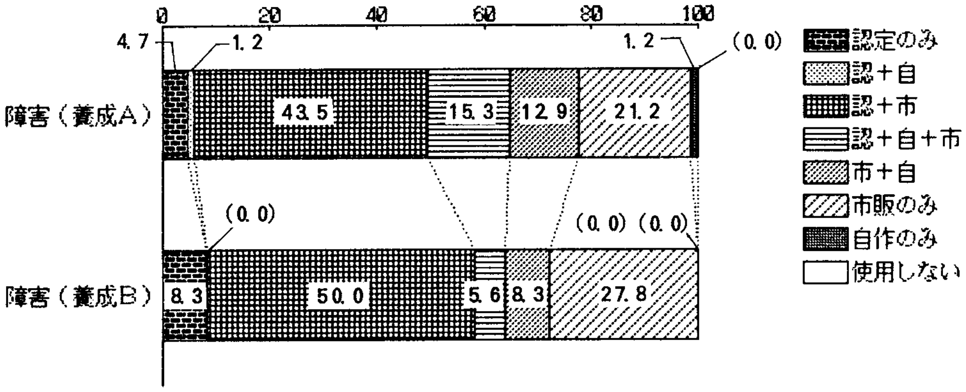

図2－3　図書教材の組合せ利用／障害者

A型訓練、B型訓練共に、認定教科書の使用が約65%、市販図書の使用が約93%と、市販図書の使用が認定教科書の使用を大きく上回っている。また、市販図書の単独使用も約23%であり、市販図書に依存する傾向を強く示している。しかし、自作図書はA型訓練で約30%が使用しており、図書教材の自作化も進みつつある状況がうかがえる。

2．図書教材の使用冊数

調査項目「職業訓練用教科書の使用冊数」で回答のあった認定教科書、市販図書及び自作図書の使用冊数から、図書教材の１訓練科当たりの使用冊数（平均使用冊数）を調べた。以下、図書教材の使用冊数状況を述べる。なお、集計結果の詳細は巻末資料４を参照されたい。

(1) 図書教材の平均使用冊数

図書教材の平均使用冊数を、訓練科区分別、都道府県立訓練科の訓練種類別、事業団立訓練科の訓練種類別に比較すると図２－４〜図２－６のようになる。

a．調査票全体の平均使用冊数は11.0冊であるが、このうち、認定施設訓練科がもっとも少なく6.3冊である。他区分の訓練科はほぼ平均に近い使用冊数となっている。

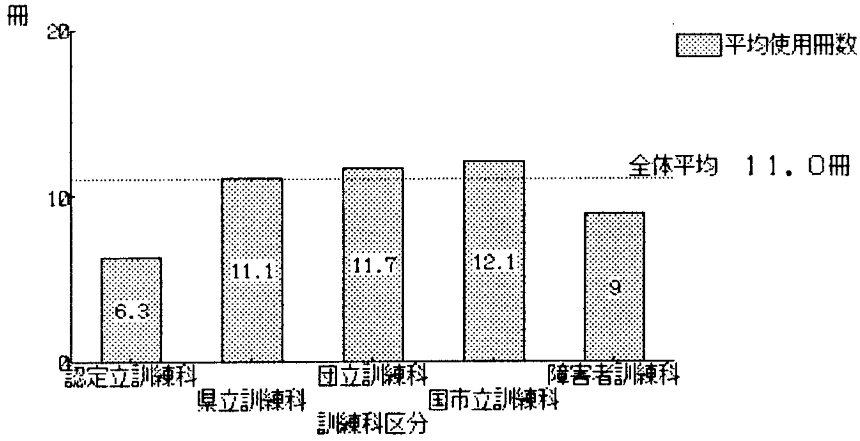

図２－４　図書教材の平均使用冊数／訓練科区分

b．都道府県立訓練科では、養成訓練B型が19.5冊と突出した平均使用冊数になっている。これは、２科で計170冊という回答（情報経理科及び計装技術）が影響したものであるが、それを除外しても17.0冊の平均使用冊数である。

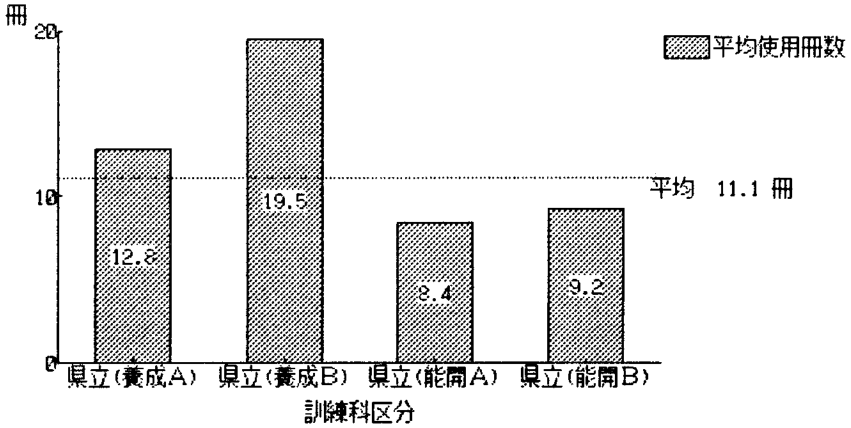

図２－５　図書教材の平均使用冊数／都道府県立訓練科

c．事業団立訓練科では、養成訓練の平均使用冊数がA型訓練、B型訓練共に能開訓練を上回っているが、一方で、B型訓練の平均使用冊数が養成訓練、能開訓練共にA型

訓練を上回っている。この傾向は都道府県立訓練科も同じであるが、能開訓練の平均使用冊数が都道府県立訓練科を上回っている点に特徴がみられ、これは、事業団立訓練科で自作図書を多く使用していることが原因したものと考えられる。

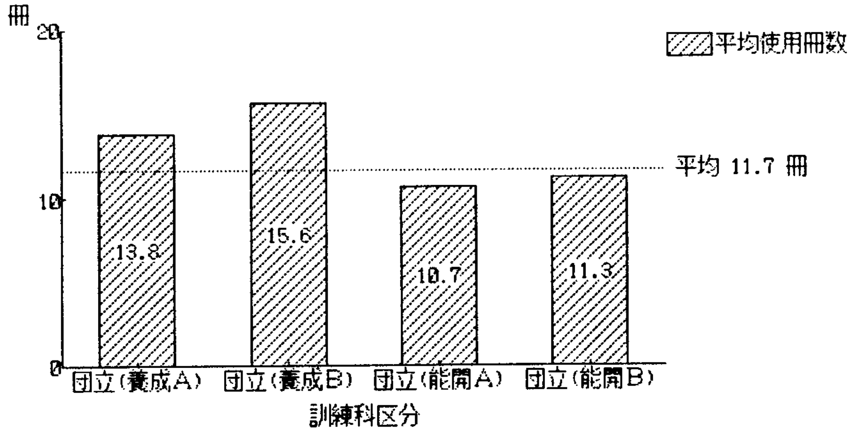

図2－6　図書教材の平均使用冊数／事業団立訓練科

(2) 認定教科書、市販図書、自作図書の平均使用冊数

前述のように図書教材の平均使用冊数は11.0冊であるが、〝認定教科書を使用している″と回答のあった訓練科における認定教科書の平均使用冊数は5.6冊であり、同市販図書が6.2冊、同自作図書が5.8冊であった。これを、訓練科区分別、訓練種類別に比較してみると図2－7～図2－9のようになる。

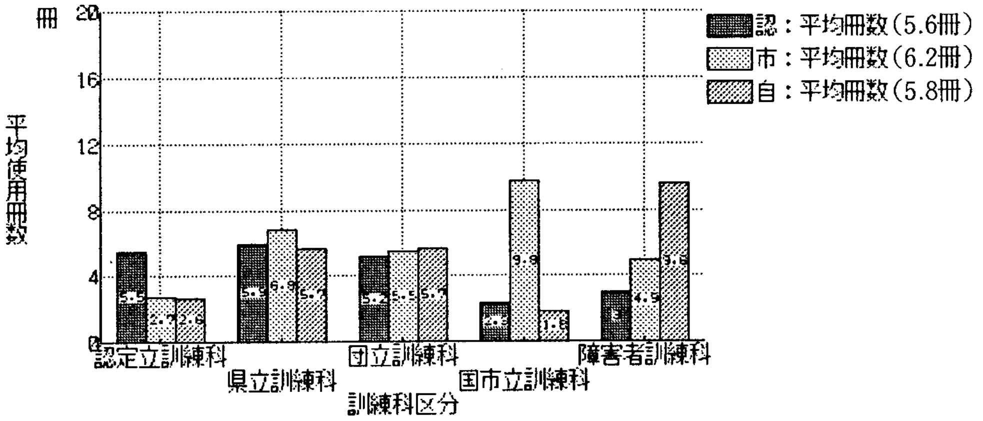

図2－7　認定・市販・自作の平均使用冊数／訓練科区分別

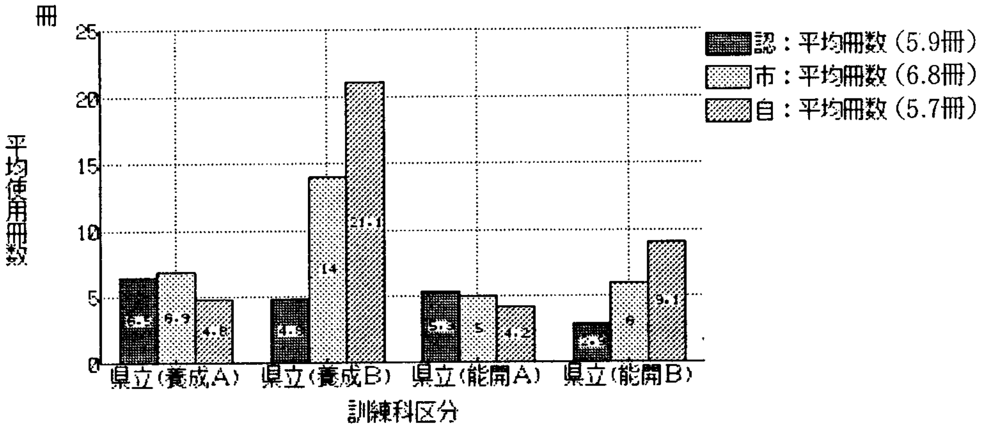

図２－８　　認定・市販・自作の平均使用冊数／都道府県立

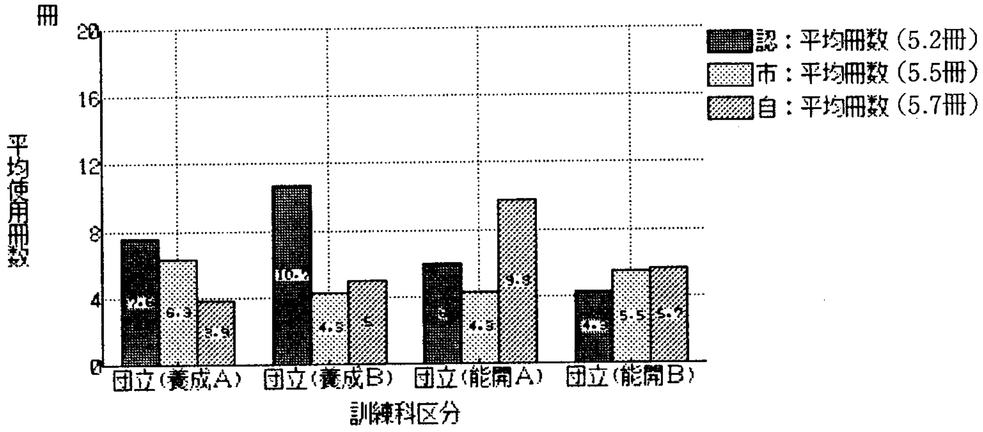

図２－９　　認定・市販・自作の平均使用冊数／事業団立

ａ．認定施設訓練科では、認定教科書が他図書の平均使用冊数を上回っており、認定教科書の使用が盛んである。

ｂ．都道府県立訓練科では、養成訓練及び能開訓練共にB型訓練で、市販図書が認定教科書の平均使用冊数を大きく上回っている。

なお、養成訓練B型で自作図書21.1冊の平均使用冊数となっているが、これは、前述の２科170冊の回答が影響したものであり、それを除くと5.1冊の平均使用冊数である。

ｃ．事業団立訓練科では、養成訓練で認定教科書が他を上回る平均使用冊数となっているが、能開訓練では認定教科書と自作図書の平均使用冊数が逆転している。能開訓練での自作図書利用が盛んな状況をうかがうことができる。

また、都道府県立訓練科の養成訓練B型と事業団立訓練科の養成訓練B型を比較してみると、認定教科書と市販図書の平均使用冊数が逆転している。高卒１年訓練が多

い都道府県立訓練科のB型訓練との性格の違いが集計に反映したものと見られる。

d．国市立訓練科では、市販図書の平均使用冊数が他図書を大きく上回っており、市販図書の使用が盛んである。

e．障害者訓練科では、自作図書の平均使用冊数が他を大きく上回っている。製版印刷科１科で68冊の回答が影響しているともいえるが、これを除いても7.7冊の平均使用冊数であり、自作図書の使用が盛んであることを示している。

(3) 図書教材の使用冊数分布

訓練科によって、認定教科書、市販図書、自作図書の平均使用冊数に大きなばらつきが見られたので、それぞれについて平均使用冊数の分布状態を調べてみた。その結果を図２－10～図２－13に示す。

a．認定教科書の場合

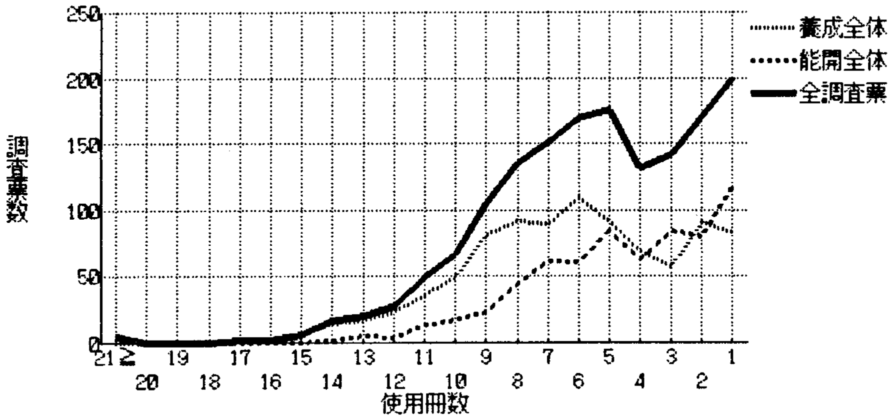

図２－10　認定教科書の使用冊数分布

図２－10をみると、３冊から４冊の使用が落ち込んでいる。これは、認定教科書の使用が生産工学概論や安全衛生などの共通専門科目に限った使用と、他専門科目を含めた使用との境界とも見られる。この傾向は都道府県立訓練科の養成訓練に著しく、認定教科書の整備状況がこの原因と考えられる。

認定教科書を10冊以上使用している訓練科も相当数あるが、これは、溶接科、板金科などモジュール訓練実施科に多い。

b．市販図書の場合

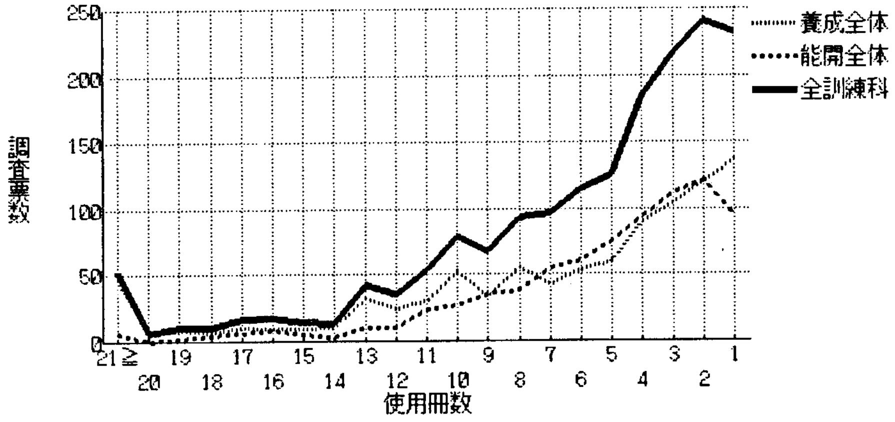

図２－11　市販図書の使用冊数分布

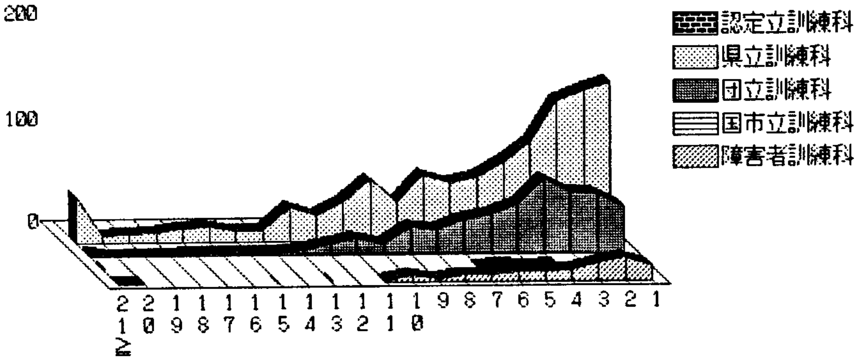

図２－12　市販図書の使用冊数分布（訓練科区分）

全体としては冊数増にともなう減少曲線を示しているが、図２－12のように、事業団立訓練科で１～５冊の使用が減少傾向を示している。これは、認定教科書との組合せ使用が盛んな範囲でもあり、また、これまで示してきたように事業団立訓練科では自作教材の使用が活発であり、これらが、市販図書の平均使用冊数を抑制したものと考えられる。

c. 自作図書の場合

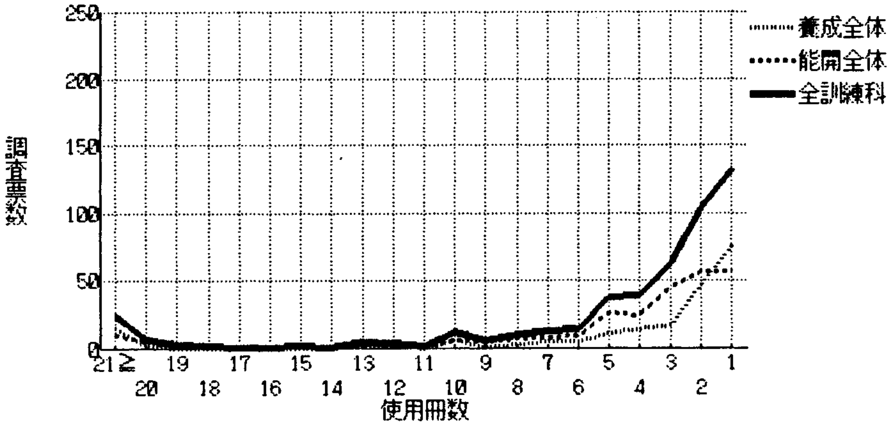

図2－13　自作図書の使用冊数分布

他図書教材に比べてさらに平均使用冊数のばらつきは大きく、特定訓練科に自作図書の使用が集中していることがうかがえる。

3. 図書教材の使用時間

調査項目「職業訓練用教科書等の使用時間数」から、認定教科書及び市販図書の専門学科訓練時間及び実技訓練持間に対する使用時間割合を図2－14～図2－16に示す。

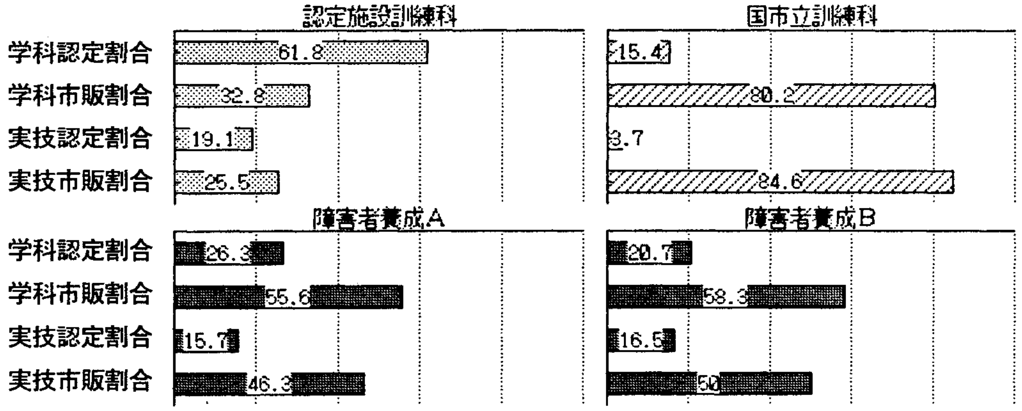

図2－14　図書教材の使用時間割合／その他の訓練科

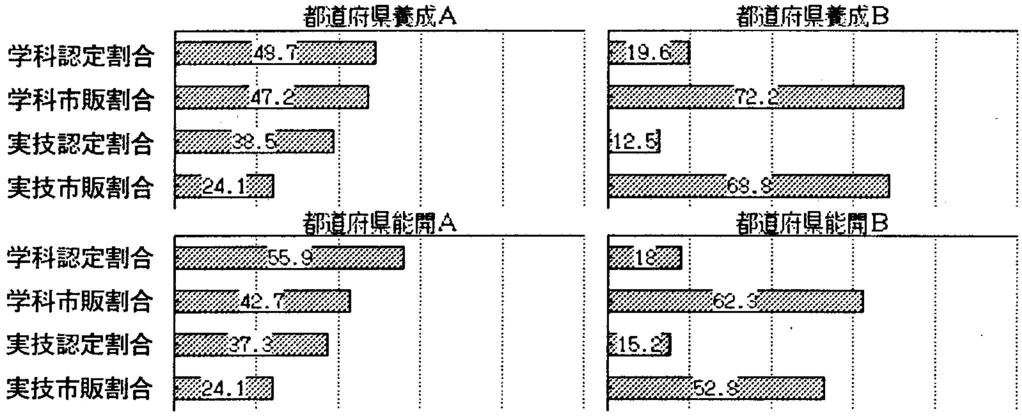

図２－15　図書教材の使用時間割合／都道府県立訓練科

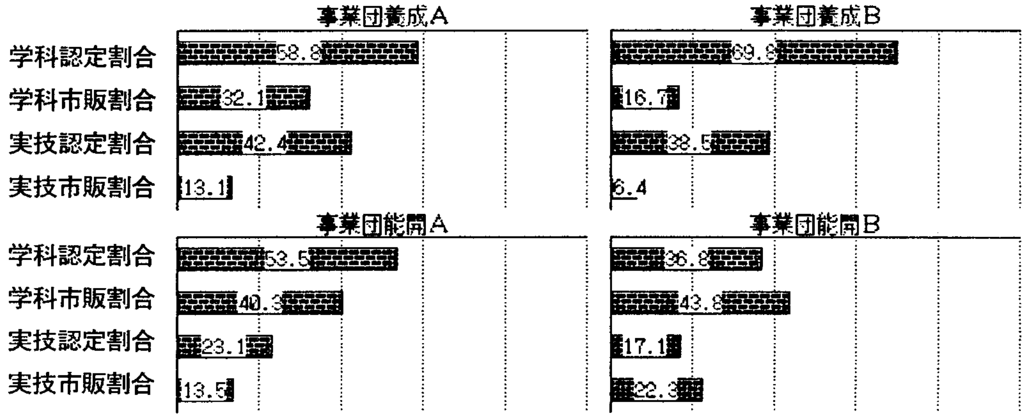

図２－16　図書教材の使用時間割合／事業団立訓練科

a．認定施設訓練科では、学科訓練時間の約62％で認定教科書を使用しているが、実技では市販図書の利用割合が高い。実技では業界への帰属性が高いと判断される。

b．国市立訓練科では、専門学科、実技共に市販図書の使用時間割合が80％を超えている。認定教科書のない訓練科が多いことが理由としてあげられる。

c．都道府県立訓練科では、専門学科、実技共にB型訓練で市販図書の使用時間割合が圧倒的に多い。訓練基準にない教科は市販図書に依存する傾向にあり、この点、次の事業団立訓練科と異なる。

d．事業団立訓練科では、B型訓練であっても専門学科、実技共に認定教科書の使用時間割合が高い。都道府県立訓練科とは逆の現象を示し、B型訓練の性格の違いを明らかにしている。

e．障害者訓練科では、都道府県立訓練科のB型訓練と同様の使用時間割合を示し、市販図書に依存する傾向が強い。

となり、一般に、養成訓練では認定教科書と市販図書をバランスを保ちながら使用している様子がうかがえるが、能開訓練になるとそのバランスは崩れ認定教科書、市販図書のいずれかに的を絞った使用状況を示している。

4．図書教材の購入費及び費用負担

調査項目「職業訓練用教科書等の購入価格等」から、図書教材の購入費、平均単価、費用負担の概況を以下に示す。

(1) 図書教材の購入費

巻末資料4で訓練生1人当たりの図書教材購入費を示しているが、これによると、全調査票における図書教材の平均購入費は9,956円であり、養成訓練が能開訓練の約1.4倍の負担増になっている。これを、図書教材別にみると図2－17〜図2－19のようになる。なお、以下に掲げる各図書教材の平均購入費は、その図書教材を使用していると回答のあった訓練科の平均購入費である。

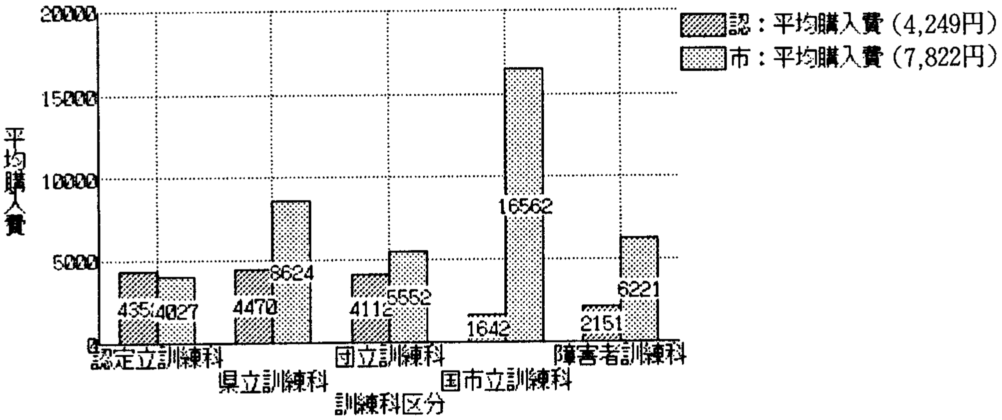

図2－17　図書教材の平均購入費／訓練科区分別

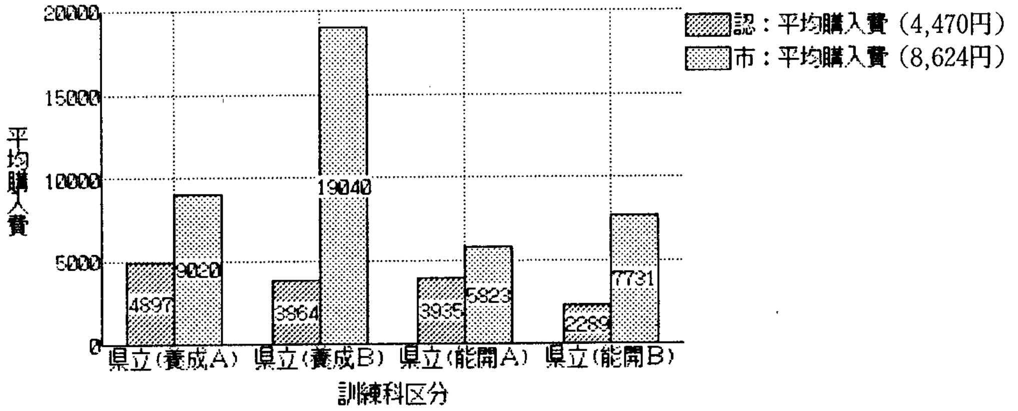

図２－18　図書教材の平均購入費／都道府県立訓練科

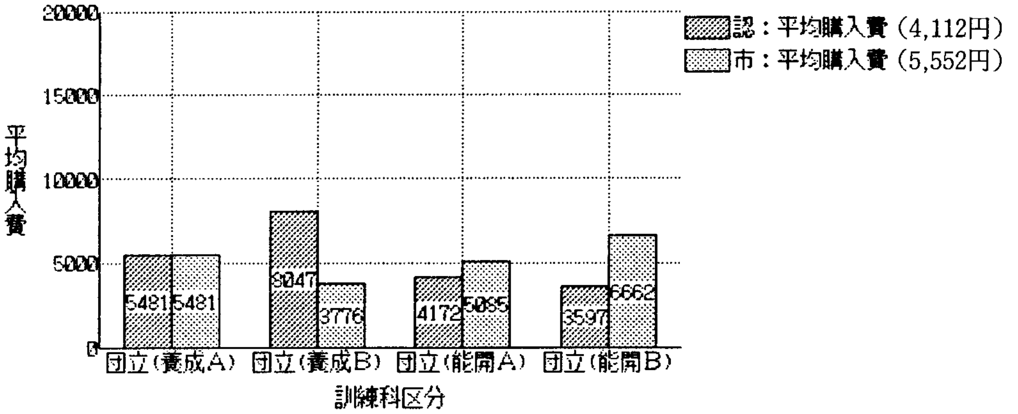

図２－19　図書教材の図書別平均購入費／事業団立訓練科

ａ．認定教科書の平均購入費4,249円に対し、市販図書の平均購入費は7,822円であり、市販図書の平均購入費は認定教科書の約1.8倍である。

ｂ．国市立訓練科で市販図書の平均購入費が突出しているが、これは１科で89,900円の回答（臨床検査科）が影響したものである。

ｃ．都道府県立訓練科では、養成訓練B型で市販図書の平均購入費（19,040円）が突出している。これは、当該訓練科の約60％が10冊以上の市販図書を使用しており、これが購入費大の原因となっている。なお、この背景として、情報処理系やメカトロ系の訓練科（高卒１年訓練）をB型訓練で対応していこうとする姿勢が大きく影響しているようである。

ｄ．事業団立訓練科では、認定教科書及び市販図書の購入費較差はあまり見られない。これも自作図書の使用が市販図書の平均購入費を抑制したものと解釈できる。

(2) 図書教材の平均単価

図書教材の平均単価の集計結果は巻末資料4のとおりである。これによると、認定教科書の平均単価は762円、市販図書の平均単価は1,266円であり、市販図書は認定教科書の約1.7倍の単価となる。

なお、図2－20は認定教科書と市販図書の平均単価を訓練科区分別に比較したものである。

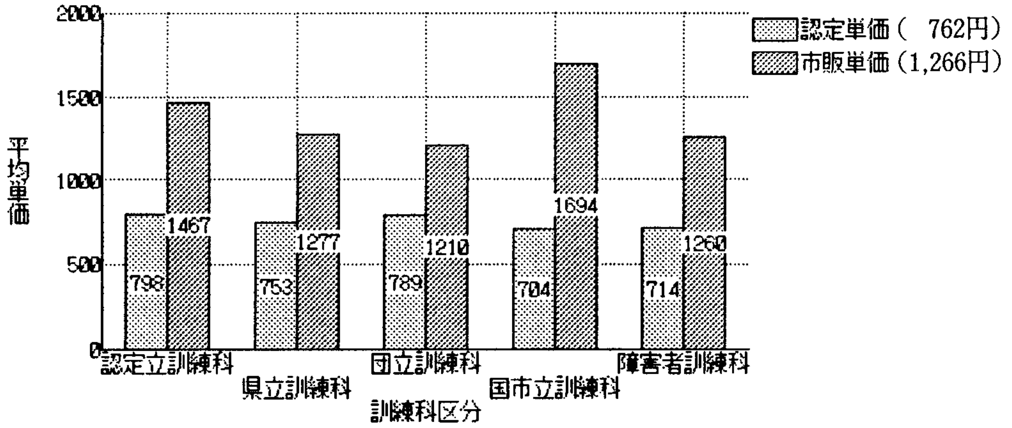

図2－20　図書教材の平均単価